

# 山陽新聞夕刊

## [一日一題]

### 【脳卒中】

#### 脳卒中 —用心の杖—

岡山市病院事業管理者、岡山市立市民病院長 松本健五

私は脳神経外科医として日常診療を行っていますが、今回は脳卒中について一言。

脳卒中とは脳が卒に（急に）中る（あたる、倒れる）ことであり、つい先ほどまで元気だった人が突然倒れる病気です。本人、家族にとってこれほど怖い病気はありません。

「転ばぬ先の杖」は、正しい知識と予防です。脳卒中になりやすい危険因子があるかどうかをまずチェックし、あればそれを取り除く努力をする必要があります。代表的な危険因子は高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症で、4つ揃うと死の四重奏と呼ばれ、動脈硬化性疾患（心臓病や脳卒中）になる比率が30倍以上になります。危険因子を持っている方は脳や頸部の血管の動脈硬化の程度をみる検査を一度は受けましょう。一方、「くも膜下出血」になるかどうかは血管のこぶ（脳動脈瘤）があるかどうかになります。もしあれば動脈硬化もなく元気な人でも突然起こります。40歳を超えて、脳の血管の検査をしてこぶがなければその人はまず一生くも膜下出血にはなりません。もしあったとしても、手術で防ぐことができます。しかしながら、いざ手術となると大いに悩みますので、腹を決めて受けましょう。

次に「転んだ後の杖」です。不幸にも脳卒中になった場合には、直ちに脳卒中に対応可能な病院を受診し、早期の治療を行うことです。半身に力が入りにくい、感覚がおかしい、言葉がしゃべれない、激しい頭痛がするなど脳卒中が疑われる症状が出た場合、一刻も早くかかりつけの先生に相談し受診しましょう。

誰しも災いから逃れたいものです。日頃から「用心の杖」を持っていないければと思います。